

今後の小中学校のあり方について

～施設一体型小中一貫校を目指して～

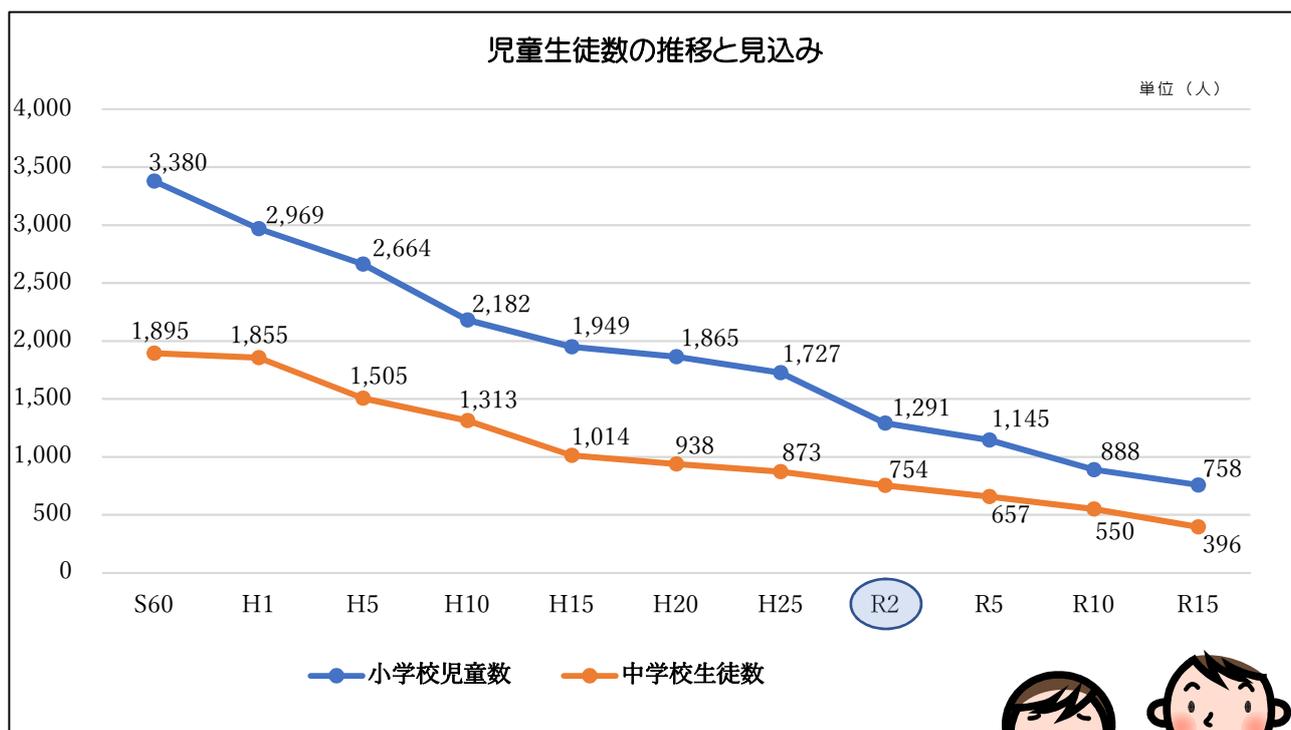
保護者の皆様方には、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置のための臨時休校や、再開後の学校運営に対しご理解とご協力をいただき深く感謝いたします。

今回は、毛呂山町の小中学校における課題と、子どもたちのためにより良い小中学校のあり方についてお知らせします。

町立小・中学校の現状

1 児童生徒数のこれまでの推移と今後の見込み

全国的に少子化が進む中、毛呂山町の児童や生徒の数も減少しています。令和2年度の児童生徒数は、35年前の昭和60年度に比較すると60%以上減少し、令和15年度にはさらに40%以上減少する見込みです。



2 現在の学級数と教員数、今後の見込み

今年度の光山小学校は5学年が1クラス（単学級）で、令和15年度には全ての小学校が単学級になってしまう見込みです。また学級数が減ると教員の数も減り、少人数の教員で学校運営を行わなければなりません。

学校名	R2		R5		R10		R15	
	学級数 (クラス)	教員数 (人)	学級数 (クラス)	教員数 (人)	学級数 (クラス)	教員数 (人)	学級数 (クラス)	教員数 (人)
毛呂山小学校	12	16	12	16	11	15	6	9
川角小学校	12	16	12	16	11	15	6	9
光山小学校	7	10	8	11	6	9	6	9
泉野小学校	12	16	10	13	9	12	6	9
毛呂山中学校	12	20	10	18	9	17	6	12
川角中学校	9	17	9	17	8	15	6	12

※教員数は現在の国の教員配当基準による試算です
※特別支援学級をのぞきます

学校の小規模化によるメリットとデメリット

児童生徒数が減少して学校が小規模化すると、次のようなメリットやデメリットが生じます。

主なメリット

- ・運動場や体育館、特別教室が余裕をもって使えます。
- ・教材などを一人ひとりに行き渡らせやすくなります。

主なデメリット

- ・小学校では卒業まで一度もクラス替えができません。
- ・中学校では部活動の種類が少なくなります。
- ・教科担任教員が配置しづらくなります。



小中学校の校舎

毛呂山町の校舎は昭和40年代から50年代にかけて建築されました。すでに50年を経過した校舎もあり、今後の維持費に多額の費用がかかります。

毛呂山小学校・・・S 46 年度築

川角小学校・・・ S 42 年度築

光山小学校・・・ S 49 年度築

泉野小学校・・・ S 54 年度築

毛呂山中学校・・・ S 47 年度築

川角中学校・・・ S 49 年度築

※各校とも現在の校舎のうち、一番古い校舎の建築年度です

教育委員会の取り組み ～プロジェクト基本方針～

1 未来を拓(ひら)く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針

町教育委員会では、より良い教育と教育環境を充実させるため、平成25年度から町内各種団体から選出された方に検討していただきました。そしてその報告をもとに平成30年度に「未来を拓(ひら)く人づくり(小中一貫教育)プロジェクト基本方針」(以下プロジェクト基本方針)を策定しました。

2 コミュニティ・スクールの推進

小中一貫教育を推進するためには、保護者や地域住民の方々が学校の運営にかかわる「コミュニティ・スクール」の推進が欠かせません。町では令和元年度から全ての小中学校でコミュニティ・スクールが導入されています。

※今年度はコロナウイルス感染症拡大防止のため中止

プロジェクト基本方針が目指す小中一貫教育

プロジェクト基本方針が目指す小中一貫教育は、同じ中学校区の小中学校区を「ひとつの学園」として意識し、小・中学校9年間の義務教育を一貫して連続性のあるものとして指導してくものです。

具体的なねらい

- ・連続性のある9年間の教育課程によって、学力の向上と「いのちの教育」を通して「生きる力」を育成します。
- ・中学校入学時の「中1ギャップ」の解消を目指します。
- ・小中学校教職員の相互理解を進め、学習指導等の充実、改善を図ります。
- ・学校と家庭・地域の協働体制をつくり教育環境の充実を図ります。

中学校区ごとの小中一貫校の“かたち”

1 小中一貫校の“かたち”

プロジェクト基本方針を推進するには、適正規模で適正配置である「小中一貫校」の整備が必要です。小中一貫校のかたちは中学校区ごとの「施設一体型」「施設隣接型」「施設分離型」の3種類があります。

2 最も効果的な「施設一体型」小中一貫校

プロジェクト基本方針を最も効果的に推進するには、校舎に全9学年あり、組織・運営ともに教職員が一体となる「施設一体型」小中一貫校が最も望ましいかたちです。大規模改修工事が終了している中学校ごとに小中学校を集約すると、同じ敷地のため教職員の負担が軽減され、安全安心な教育環境を確保できます。

施設一体型小中一貫校の開始目標年度

令和元年度に策定された毛呂山町公共施設個別施設計画において示した、施設一体型小中一貫校の開始目標年度は次のとおりです。

開始目標年度：令和10年4月1日

毛呂山中学校区
(毛呂山中学校・毛呂山小学校・泉野小学校)

開始目標年度：令和8年4月1日

川角中学校区
(川角中学校・川角小学校・光山小学校)



この開始目標年度は、教科担任制をとる中学校でも、施設一体型小中一貫校により小中学校の教員が一体となり安定して授業がおこなえることを重視し、周知期間や準備期間を考慮して設定しました。

今後のこと

授業のこと、学校行事のこと、校舎のこと、学区や通学路、跡地利用のことなど、小中学校を集約するには決めなければならないことが数多くあります。今後は施設一体型小中一貫校を目指して、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら広聴会（広く町民の意見を聴く会）を開催するとともに、これからも学校からの通知や広報などでお知らせしてまいります。